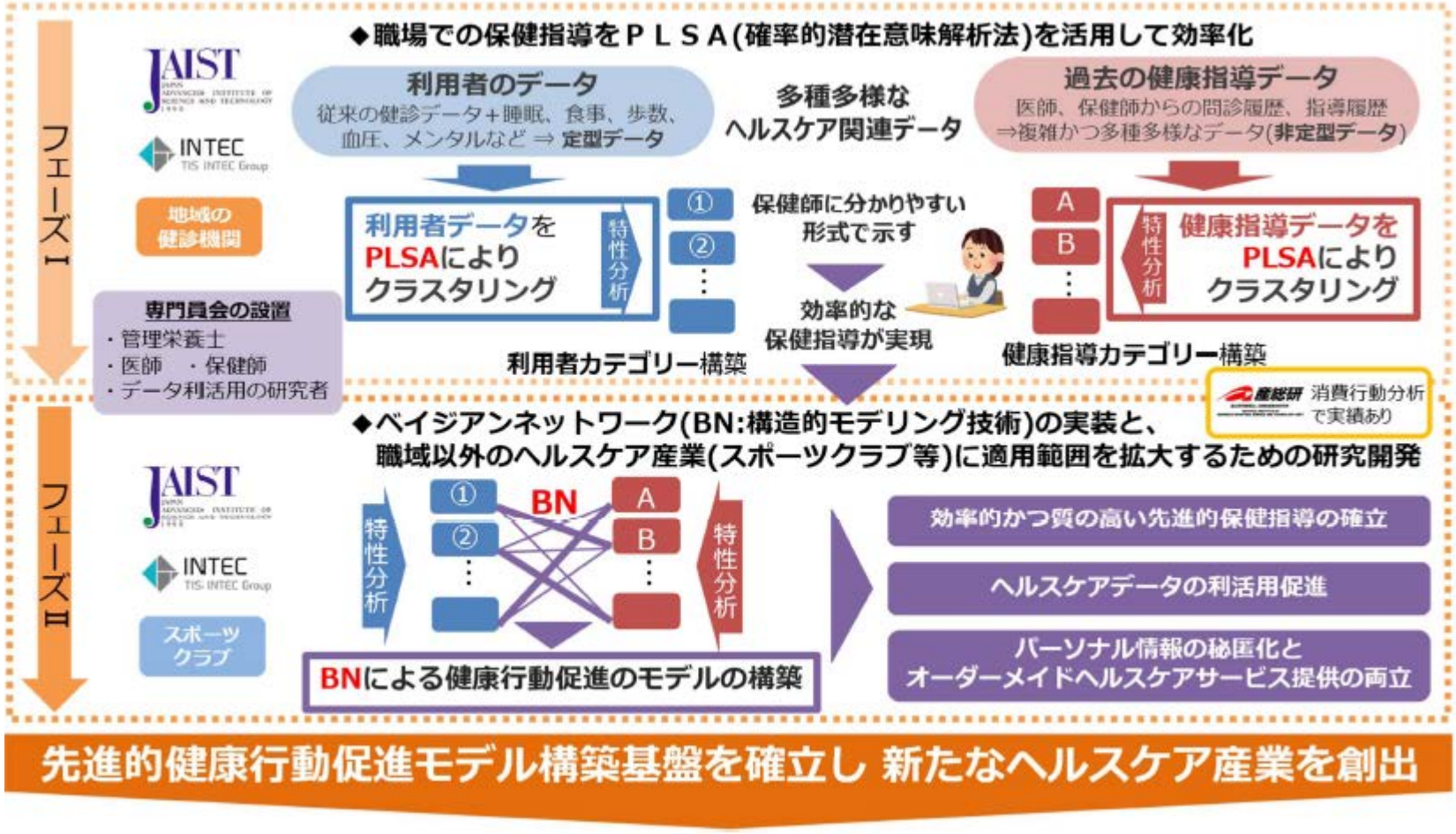
研究開発内容説明図

参考資料4

確率的潜在意味解析法（ＰＬＳＡ）を用いた先進的健康行動促進モデルの研究開発の概要

研究代表者　　：小坂　満隆（北陸先端科学技術大学院大学）
参画研究機関名：株式会社インテック
研究開発期間　：フェーズⅠ　平成２９年度
　　フェーズⅡ　平成３０年度～平成３１年度

本研究では、消費行動分析で実績のある「確率的潜在意味解析法（PLSA）」と「構造的モデリング技術（ベイジアンネット）」をヘルスケア領域に応用し、先進的な健康行動促進モデルを研究開発する。これにより、対象者の健康行動を予測し、保健師等が実施する行動変容に向けた介入を、より効果的で、効率のよいものとする。さらに、パーソナルデータを秘匿した状態での情報流通により、ヘルスケア情報の活用を促進する。